

九州北部の山岳信仰・霊場遺跡 と大宰府

立命館大学
文学部

岡寺 良



宝満山



求菩提山と犬ヶ岳山系



耳納山系と高良山

1

本日の項目

はじめに 山岳信仰とは

1 仏教以前の山岳信仰

—6～7世紀の筑前・豊前の霊山の事例—

2 宝満山の山頂祭祀

—神道祭祀と仏教僧との関わりと大宰府—

3 古代山林寺院の成立

4 中世山寺への展開と中国文化の影響

5 山中修行と「峯入り」

おわりに 近世以降の山岳信仰—修験道化と神仏分離—

3

要 旨

山岳をはじめとする自然への信仰・崇拝は古くから存在したと考えられるが、奈良時代以降、山岳密教の伝来や神仏習合が進む中で、山中を修行・祭祀の場とした宗教空間が成立しました。

それら山中における信仰の痕跡や聖地・霊場の場としての痕跡を「山岳信仰・霊場遺跡」とし、本講義では、大宰府を中心とした九州北部地域における山岳信仰・霊場遺跡の成立と展開について、全国的な山岳信仰の展開や近年の研究動向も踏まえたうえで、古代～中世までの様相を紹介したい。



はじめに 山岳信仰とは

「山岳信仰」:

山岳に宗教的意味を与えて崇拝し、また山岳を対象として種々の儀礼をおこなうこと(宮家編 1986)

- ・縄文時代の山頂の遺物:石鏃・石斧・縄文土器など→狩猟等に関わるもの ×山岳信仰
- ・弥生時代には高山からは遺物が出土しない
:活動の範囲外→無関心あるいは禁足地
- ・古墳時代の山岳信仰
:山麓・山腹の巨石に神を招き下ろして祀る(大和・三輪山) ×山頂での祭祀



三輪山(岡寺撮影)



三輪山山の神遺跡
(時枝2016)



沖ノ島祭祀遺跡の巨岩群

1 仏教以前の山岳信仰 — 6～7世紀の筑前・豊前の霊山の事例—



英彦山及び彦山六峰位置図

1 仏教以前の山岳信仰 — 6～7世紀の筑前・豊前の霊山の事例—

蔵持山遺跡群(福岡県みやこ町)

東谷地区(標高352m)6世紀後半～7世紀代の須恵器蓋坏・高坏

普智山等覚寺遺跡(福岡県苅田町)

上宮白山多賀神社境内(標高約300m)6世紀後半頃の須恵器甕・器台

求菩提山(福岡県豊前市)

山頂上宮(標高782m)6世紀後半頃の須恵器壺

杉谷・上谷地区(標高550-600m)6世紀後半頃の須恵器高坏・壺・甕

八面山(大分県中津市)

山頂(標高659m)6世紀後半頃の須恵器甕

首羅山遺跡(福岡県久山町)

西谷地区観法岩周辺ほか(標高100-150m)7世紀代の須恵器ハケ・甕



英彦山及び彦山六峰位置図

1 仏教以前の山岳信仰 — 6～7世紀の筑前・豊前の霊山の事例—

※仏教普及以前の山岳信仰(7世紀後半以前)

・仏教の伝来は6世紀前半とされるが、山の信仰と深く結びついていく様子が確認できるのは7世紀後半以降(大和の山寺)

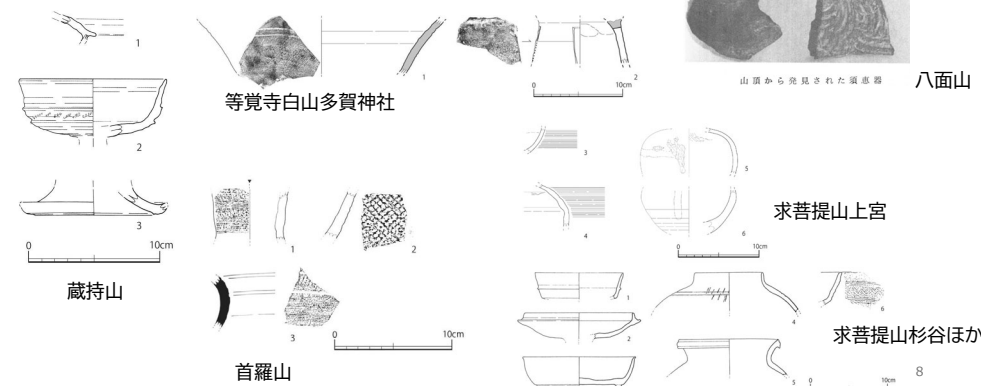
・それ以前の山は、日本古来の神として信仰(葛城山→葛城一言主命など)

→山は神のもの

→山麓からの遥拝が一般的

そういった中で、九州北部には7世紀後半代以前から山頂に人の痕跡が確認できる事例が複数存在する

1 仏教以前の山岳信仰 — 6～7世紀の筑前・豊前の霊山の事例—



1 仏教以前の山岳信仰 —6～7世紀の筑前・豊前の霊山の事例—

古代以前の山頂・山腹における遺物の特徴(若林2020b)

- ① 縁起などの開山・開基時期、あるいはそれよりも遡る時期にあたる6世紀後半～7世紀代の所産
- ② 器種のほとんどが古墳時代の供献用に用いられる
- ③ 採集・出土地点は山頂あるいは山腹であり、周辺には古墳はなく古墳や集落に関わるものではない

既にこの段階で「山麓からの遥拝」+「山岳登拝？」

2 宝満山の山頂祭祀 —神道祭祀と仏教僧との関わり—



(小嶋篤氏撮影)

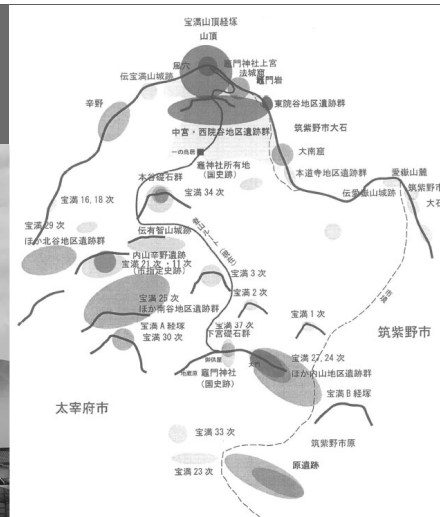


図1 宝満山中の遺跡概念図 (山村2021)

山岳信仰(山岳登拝) の成立



※仏教普及以後の山の信仰(7世紀後半～8世紀)
 仏教が山へ入っていくきっかけは、仏教が神を取り込む「神仏習合」
 神の山を僧侶が護る→神宮寺(神に奉仕する寺院)
 三輪山と大神寺など
 神宮寺の成立により、仏教が山に入り込んでいく
 →神の姿は仮のもの(垂迹)で、本来の姿(本地)は仏とする
 「本地垂迹説」

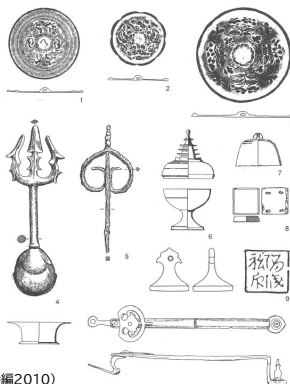
※山頂祭祀の成立

大峰山山上ヶ岳(8世紀後半～):護摩が焚かれた痕跡
 (10世紀):護摩壇の成立

日光男体山山頂遺跡(8世紀後半～)

:岩裂周辺から銅鏡・銅印・銭など多種多様な祭祀遺物

宝満山は辛野祭祀遺跡が7世紀後半
 とひとときわ古い成立



日光男体山と
男体山山頂
遺跡出土遺物
(山の考古学研究会編2010)

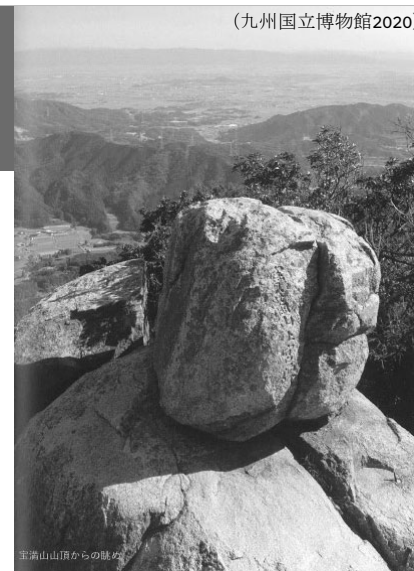
2 宝満山の山頂祭祀 —神道祭祀と仏教僧との関わり—



皇朝銭「神功開宝」・「富寿神宝」

9世紀前半代に見られる宝満山の神である「龍門神」への度重なる叙位を裏付ける国家的祭祀の存在を裏付ける考古資料

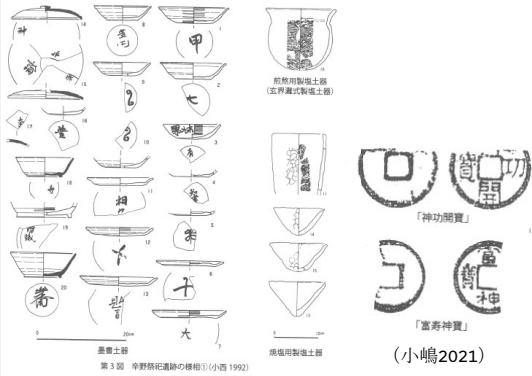
(九州国立博物館2020)



宝満山山頂からの眺め

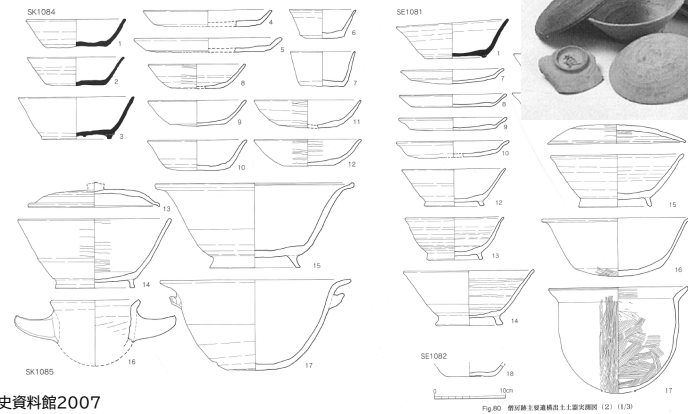
2 宝満山の山頂祭祀 —神道祭祀と仏教僧との関わり—

主体をなす祭祀遺跡が「辛野祭祀遺跡」



2 宝満山の山頂祭祀 —神道祭祀と仏教僧との関わり—

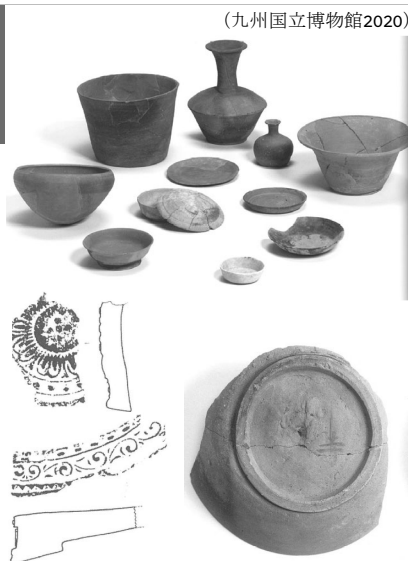
観世音寺出土土器(宝満山と類似)



2 宝満山の山頂祭祀 —神道祭祀と仏教僧との関わり—

近年の研究動向

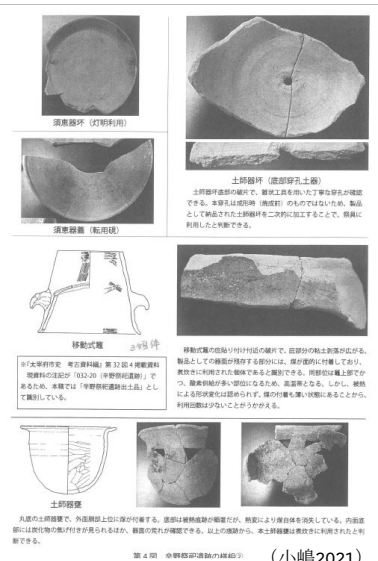
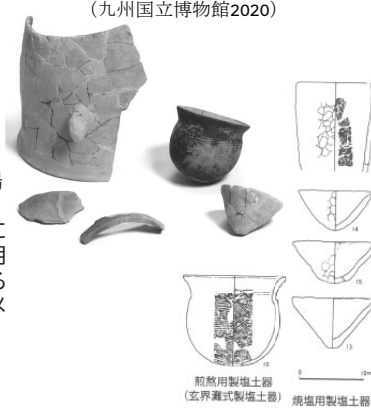
- ・「鉄鉢形土器の鉄鉢形土器等の資料から「神祇色一辺倒で理解されてきた宝満山の祭祀のイメージは、仏教による神仏習合色の強い祭祀もしくは供養のイメージに改めなければなるまい」としている(時枝2016など)
- ・宝満山における仏教信仰が当初から存在していたことについては、竜門山寺における鴻臚館式軒瓦の出土からも指摘(小田2019)
- ・「寺」銘墨書土器や観世音寺と共通する大型の鉢形須恵器や鉄鉢形須恵器などの存在から、山頂祭祀に仏教関係者が含まれていたことを示す(山村2021、小嶋2021)



2 宝満山の山頂祭祀 —神道祭祀と仏教僧との関わり—

近年の研究動向

- ・調理痕跡の残る土師器甕や移動式竈、大量の製塩土器の存在は、山中において神饌の調理が行われていたことを示すものとしても着目される(小嶋2021)
- ・古密教僧の抖擻、神官による祭祀の際の食事に用いたものの可能性もあるのではないかと(山村氏コメント・熊本県教委2026)



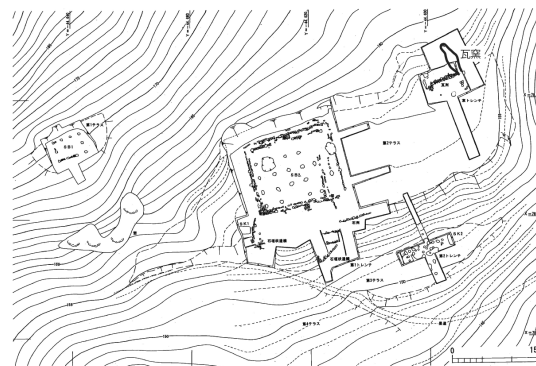
2 宝満山の山頂祭祀 —神道祭祀と仏教僧との関わり—

製塩土器に注目

・製塩土器については、全国の山岳信仰の山で製塩土器が出土するのは宝満山だけだとされてきたが(森2000)、近年、宝満山以外にも普智山鳥居口遺跡、白山多賀神社(福岡県苅田町・若杵2020a)、求菩提山護摩場地区(福岡県豊前市・若杵2020b)、後野・山ノ神遺跡群(福岡県那珂川市・小嶋2019)など北部九州の山岳信仰に関わる遺跡から見出され始めており、塩の奉献、神饌の調理など、祭祀空間における祭祀行為を考える上で重要な存在。



3 古代山林寺院の成立 山林抖擻の拠点としての山寺 福岡県内での古代山林寺院の事例



古賀市薬王寺廃寺(古賀町教育委員会1995)



3 古代山林寺院の成立

※古代山寺(山林寺院)の成立(8世紀～)

山林修行は戒律を守る根本 悔過(過ちを悔いる)
頭陀(ずだ)→抖擻(とそう)
俗世を離れた山での修行 例)比叡山の廻峰行
平地寺院で通常生活、山林寺院で修行生活を繰り返す
→山林寺院では日常生活はしない

※七高山

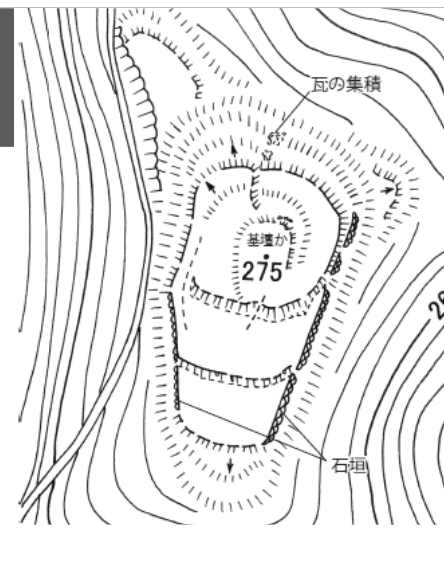
→承和3年(836)に朝廷から選ばれた霊山で阿闍梨を置く
比叡山・比良山・伊吹山・愛宕山・神峰山(かぶさん)・
金峰山・葛城山

金剛山と大和葛城山(岡寺撮影)



3 古代山林寺院の成立 福岡県朝倉市堂ヶ尾廃寺

堂ヶ尾廃寺
出土瓦
(大宰府政庁と
同範)
(甘木市1986)



3 古代山林寺院の成立 福岡県朝倉市堂ヶ尾廃寺

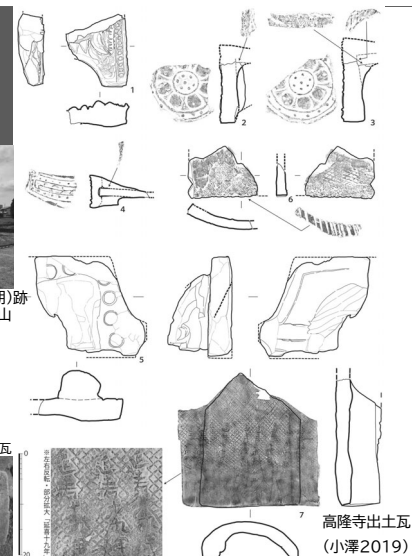
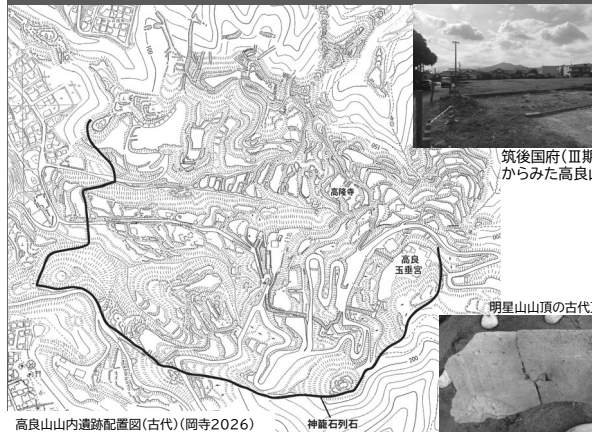
大宰府政庁出土瓦
(大宰府政庁と同範)
大宰府政庁周辺・観世音寺で使われた後、
水城や般若寺などでも使われるようになった段階で、堂ヶ尾廃寺でも使われた。



堂ヶ尾廃寺出土瓦
(大宰府145bと同範)(甘木市1986)

145 a			145 ・単弁一重弁一菊 花状弁 ・中房 1+6 ・内区 T14 間弁 C系統 ・外区 内縁S25 外縁素文	145a 政庁 1, 2, 6, 15, 26, 30, 41, 49, 180 観世音寺 70 学校院 74 官人居住区 76 蔵司官衙 60 不丁官衙 14, 17, 83, 87, 90, 147 大宰府奉坊 文53
145 b			145b ・中房 簡簡が生 じている ・内区 弁の先端 が尖ったものが 生じ 先端が外区 界線に接したもの がある ・外区 内縁連珠 文の粒が大 ・丸瓦部に文字銘 90IDが併った ものがある	145b 政庁 6, 30 水城24, 水城26 官人居住区 138 般若寺 文45

3 古代山林寺院の成立 筑後耳納山系の古代山寺遺跡



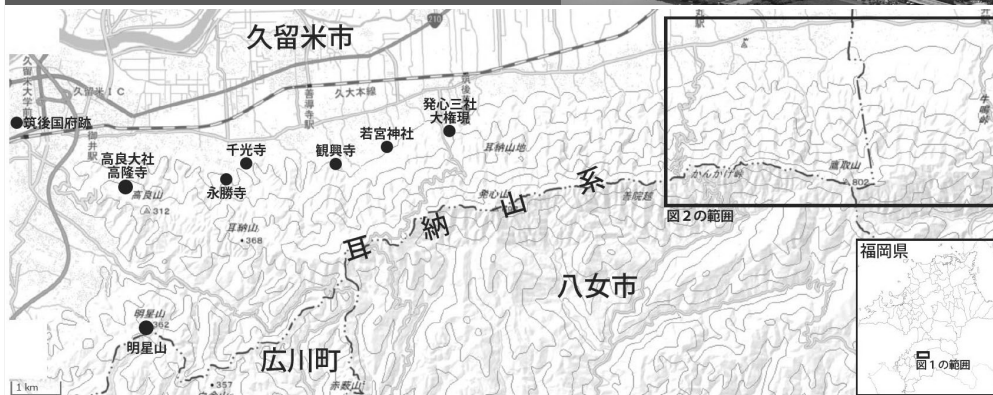
高良山山内遺跡配置図(古代)(岡寺2026)

神羅石列石

明星山山頂の古代瓦

高隆寺出土瓦
(小澤2019)

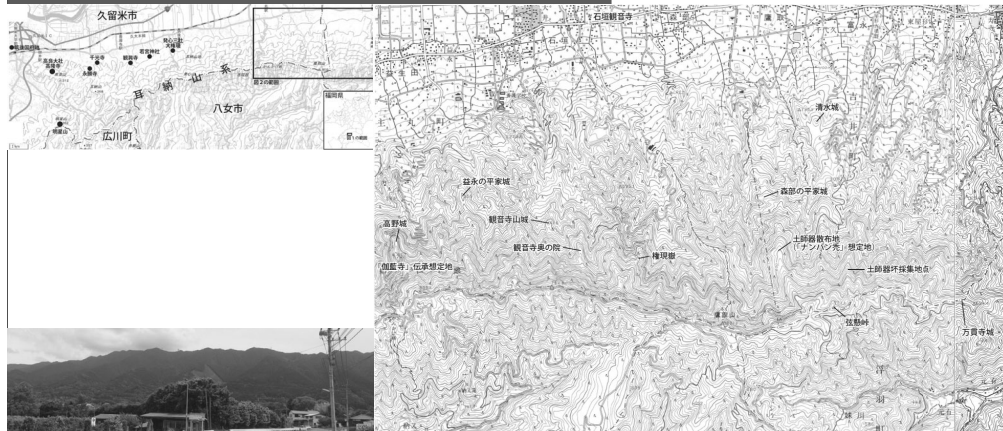
3 古代山林寺院の成立 筑後耳納山系の古代山寺遺跡



耳納山系の山岳霊場位置図(岡寺2019)

3 古代山林寺院の成立 筑後耳納山系の古代山寺遺跡

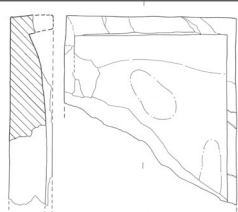
耳納山系の山岳霊場位置図



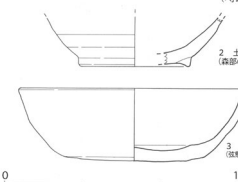
3 古代山林寺院の成立 筑後耳納山系の古代山寺遺跡



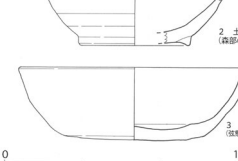
森部の平家城伝承地(8世紀末頃の須恵器)



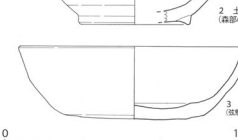
1 石塔 (寺地石製)
[寺地] 聖徳太子御



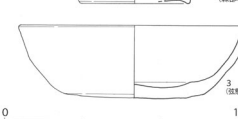
2 土師器
[森部の平家城伝承地]



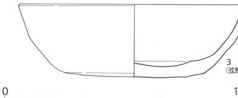
3 土師器
[森部の平家城伝承地]



4 土師器
[森部の平家城伝承地]



5 土師器
[森部の平家城伝承地]



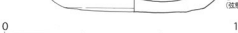
6 土師器
[森部の平家城伝承地]



7 土師器
[森部の平家城伝承地]



8 土師器
[森部の平家城伝承地]



9 土師器
[森部の平家城伝承地]



10 土師器
[森部の平家城伝承地]



石垣山観音寺境内之図(福岡県名所図録図録)

4 中世山寺への展開と 中国文化の影響



大阪府観心寺

※平安仏教と山寺(9世紀)

・平安時代初期～密教の伝来 深山(みやま)への寺の進出

・高野山・比叡山の開山

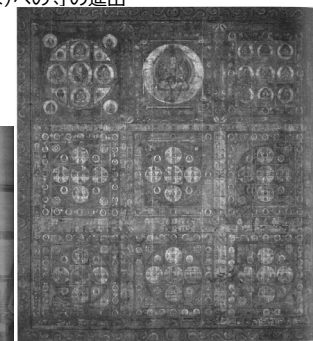
密教～仏の教えを經典から学ぶ(顯教)
だけでなく、曼荼羅のような図像
や厳しい修行から観想して悟りの
境地に至る→山林修行の盛行



最澄像(一乗寺所蔵)
(九博ほか2021)



空海像(神護寺所蔵)
(奈良博2024)



金剛界(金剛頂經の教えを圖像化)
(奈良博2024)



胎藏界(大日經の教えを圖像化)
両界曼荼羅(金剛峯寺所蔵)

3 古代山林寺院の成立 筑後耳納山系の古代山寺遺跡



石垣山観音寺奥の院



石垣山観音寺境内之図(福岡県名所図録図録)

4 中世山寺への展開と 中国文化の影響

※中世山寺の成立・展開

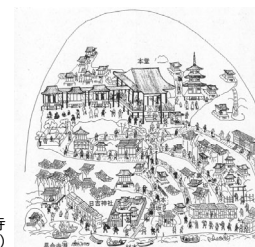
(11世紀(おおまかに中世)～)

・山麓に近い山寺への定住化

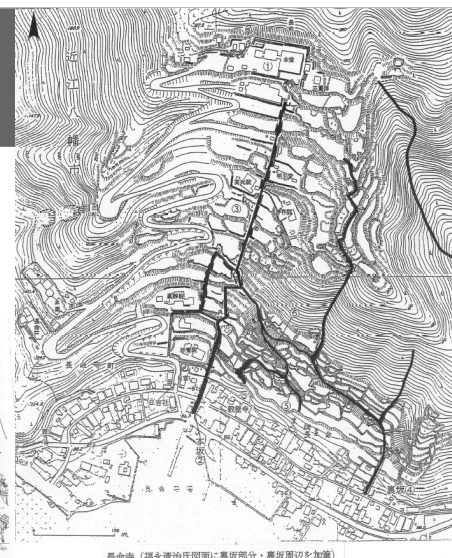
→山林資源の開発のため

・天台密教が熊野を取り込み全国展開

(三井寺末の聖護院が熊野三山検校を兼ねる)



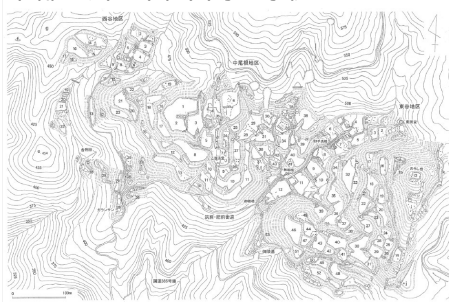
滋賀県長命寺
(藤岡2025)



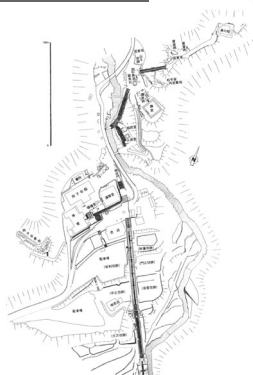
長命寺(堀永清治氏図面に裏家部分・裏家周辺を加筆)
主要道路

4 中世山寺への展開と 中国文化の影響

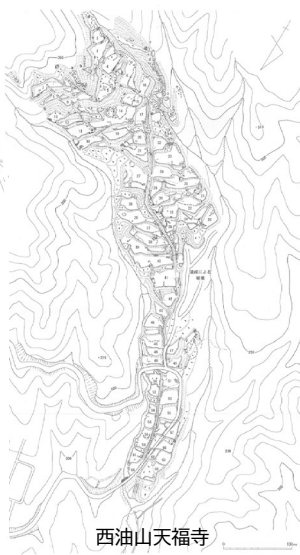
北部九州の中世山寺の事例



背振山靈仙寺



第2図 両子寺の位置関係
国東両子寺



西油山天福寺

4 中世山寺への展開と 中国文化の影響



図34・西谷地区平坦地1周辺の造成の様子
平坦地1は谷を埋めてつくられている。平坦地1上の小さな平坦地も谷を埋めてつくられており、写真右上に石垣など造成の痕跡がみられる。(江上2021)

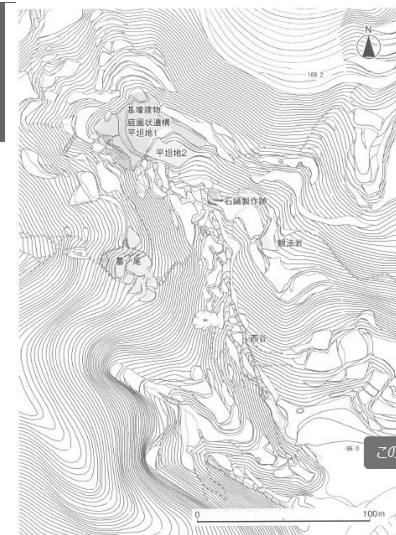


図33・西谷地区の遺構配置（鎌倉時代）

4 中世山寺への展開と 中国文化の影響

首羅山遺跡（頭光寺跡）（福岡県久山町）

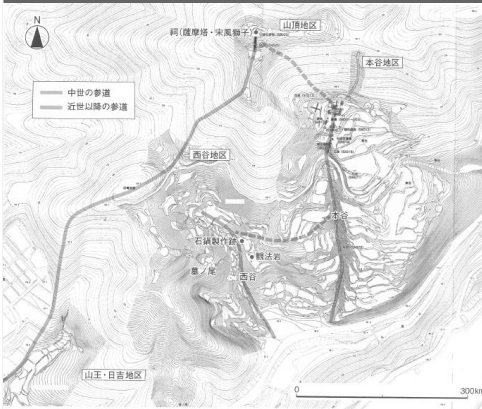


図6・首羅山の遺構分布
地形台地の幅が狭いことから、遺構（＝歴史の痕跡）は山頂地区、本谷地区、西谷地区、山王・日吉地区に集中している。また、山王・日吉地区は、山王・日吉地区に集中している。また、山王・日吉地区は、山王・日吉地区に集中している。

本谷地区



図30・首羅山の遺構（1/5000）

(江上2021)



図31・首羅山の遺構（1/5000）

4 中世山寺への展開と 中国文化の影響

中国禅宗寺院庭園の影響

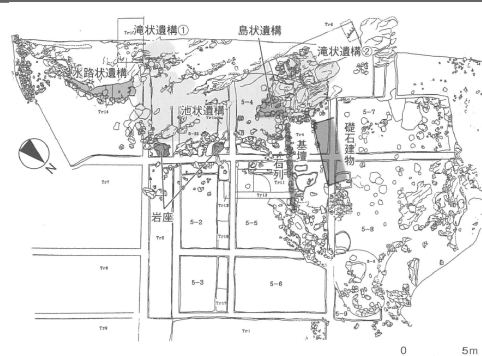


図35・西谷地区平坦地1の遺構
滑石や蛇紋岩などの露頭にかこまれている。露頭を利用して滝や導水路、池状遺構がつくられている。池状遺構は谷の水の排水を兼ねたものであった。池の縁石や岩壁などは、石を掘った後にまわりに土を貼り込んだ痕跡がある。

(江上2021)



図36・池状遺構の縁石掘削風景

[illegible]

5 山中修行と峰入り

背振山系の山中修行路

The image is a composite. The top left shows a wide landscape view of the back mountain range (背振山系) with labels for '九千部山' (Kusabuchi-san) and '背振山' (Seihon-san). The bottom left shows a view from the Daijofu Government Office looking at the back mountain range, with a caption '大宰府政庁からみた背振山系(岡寺撮影)' (View of the back mountain range from the Daijofu Government Office (Ogura-ji photo)). The right side of the image is a detailed map of the mountain trails, showing various peaks and routes. The map includes labels for peaks such as '二文岳 (711)', '獅子舞岳 (841)', '雲山 (955)', '井原山 (982)', '三瀬峠', '東峰ヶ岩 (893)', '背振山 (1055)', '雄山 (404)', '九千部山 (847)', '石谷山 (754)', and '珠現山 (626)'. It also shows the '新市街 (新市街) 山 (264)' and '天祥山 (258)'. The map is a topographic representation with contour lines and elevation markers.

九千部山

背振山

大宰府政庁からみた
背振山系(岡寺撮影)

背振山系の想定される
中世段階の山中修行路
(岡寺2017)





5 山中修行と峰入り 背振山系の山中修行路

山系に所在する様々な山中修行の要素

①磐座

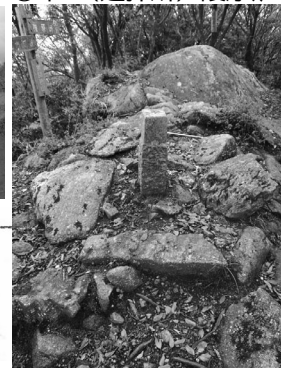


雷山山頂(龍王塔)



雷山古図書き起こし(部分)

②華立(遥拝所)・護摩炉

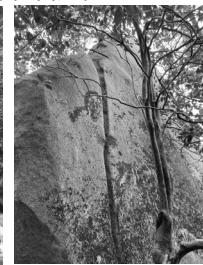


獵師ヶ岩

③行場(滝・巨岩・岩屋)



花乱の滝



三十三尋石(浮嶽南斜面)



獅子駒岩の岩屋
(浮嶽西尾根)



鬼ヶ鼻岩のシャクナゲ

④植生(石楠花・杉など)

5 山中修行と峰入り 背振山系の山中修行路

背振山頂

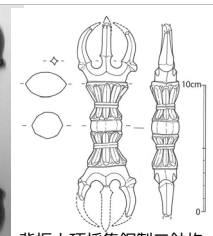


山頂・弁財天社

(龍樹三所権現(龍樹・弁財天・徳善大王)を祀る)



役行者石像



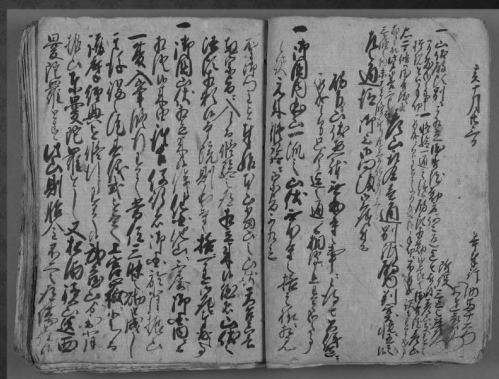
背振山頂採集銅製三鈷杵
(九歴田中幸夫コレクション)



龍ヶ池(八大龍王)

武蔵寺～背振山～雷山～鏡山の金胎両部の曼荼羅観

一、御国山伏相立来候儀、他国他山ニ不属、御国内ニ而相澄候来由、往古役行者御刻於背振山、一夏入峯修行有之、常住三昧之砌と成し、其後役之徒其儀式を定、上宮嶽ニ登而護摩經典を修行有之候、武蔵山●至背振山東曼荼羅とし、又松浦鏡山迄西曼荼羅とす、此山則金胎不二之道場と仕候、(後略)」



元禄年中より諸記録

西持院文書 一冊

内、「触下山伏惣体無本寺之事ニ候得者公儀辺ニ罷成候而も只今迄之通ニ而相澄申立見合候哉之事」写

5 山中修行と峰入り 背振山系の山中修行路

山系に所在する山寺

①背振山東門寺・霊仙寺



②雷山千如寺



③一貴山(二丈岳)



背振山界図(九大図書館所蔵)

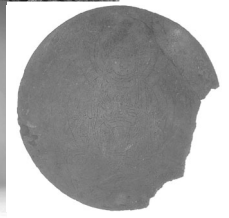
田録仙(乙護寺)



乙護寺法堂



千如寺
千手観音
清賢上人像



政所坊徳田家
高麗仏

寂光坊青木家
菩薩形鏡像

おわりに

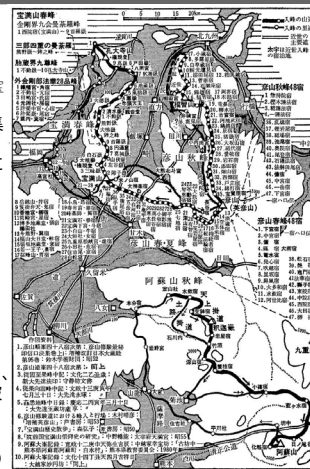
近世の山岳信仰(修験道化へ)

※修験道教団の成立 (15世紀～)

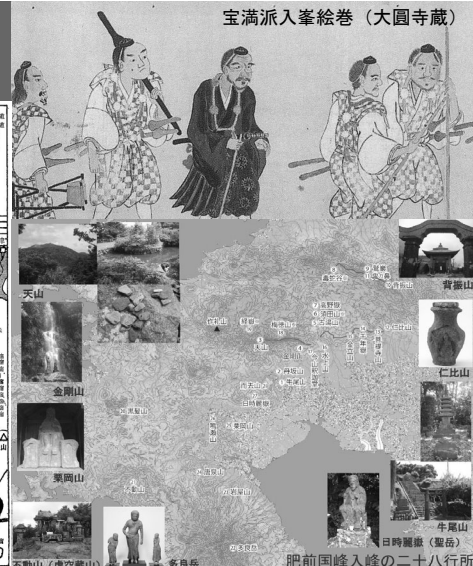
聖護院を本山とする「本山派」
南部寺院が中心となり醍醐寺三宝院を本山とする「当山派」
→戦国期に全国各地の修験集團を配下に入れる動き
→徳川家康の「修験道法度」による公認教団化
→筑前は宝満山、
豊前は英彦山・求菩提山
肥前は牛尾山ほか
を中心とした修験道寺院が中世来の山岳修験(入峰修行)を踏襲

※明治維新と神仏分離
神仏判然令(明治初年)により、
神に付随する仏教的要素の破壊
→修験道は廃止

(長野1987)



宝満派入峯絵巻(大圓寺蔵)



鏡神社経塚経筒



陶製経筒



二丈岳
(一貴山)

山系各所で 出土する経筒



背振山霊仙寺
「背振山」銘経筒



武蔵寺経塚経筒

引用・参考文献(五十音順)

- ・ 江上智恵2021『博多周縁の中世山林寺院 首羅山遺跡』新泉社
- ・ 岡寺 良編2017『背振山の山岳信仰の研究—背振山系山岳信仰・霊場遺跡現地調査報告書—』九州歴史資料館
- ・ 岡寺 良2019『耳納山系北麓の山岳遺跡』『高良山と筑後の山岳霊場遺跡』(第9回九州山岳霊場遺跡研究会資料集)(のち同寺2023『筑後耳納山系の山岳信仰・霊場遺跡』立命館文学部691号所収)
- ・ 岡寺 良2026『高良山山岳霊場遺跡の平面構造』『九州の山岳霊場』高志書院
- ・ 小田富士雄2019『考古学からみた宝満山信仰の始まり』『大宰府学研究』第1集 九州国立博物館
- ・ 九州国立博物館編2020『筑紫の神と仏』
- ・ 九州国立博物館ほか編2021『最澄と天台宗のすべて』
- ・ 九州山岳霊場遺跡研究会編2026『九州の山岳霊場』高志書院
- ・ 九州歴史資料館2003『大宰府へ向かきものが動く』
- ・ 九州歴史資料館2007『観世音寺 遺物編1』
- ・ 熊本県教育委員会編2026『古代山城と祭祀』(鞠智城シンポジウム2025成果報告書)
- ・ 古賀町教育委員会1995『薬王寺廃寺』
- ・ 小嶋篤2019『遺跡形成過程から見た巨岩と社殿』『沖ノ島研究』第5号「神宿る島」宗教・沖ノ島と関連遺産群保存活用協議会
- ・ 小嶋篤2021『宝満山遺跡群と古代祭祀』『宝満山の古代山岳信仰』(第11回九州山岳霊場遺跡研究会資料集)
- ・ 高橋市立しろと歴史館2015『大坂の修験と西方浄土 神峯・葛城山と日想観の山寺』
- ・ 時枝務2016『三輪山の祭祀空間』『筑前宝満山における山頂祭祀の成立』『山岳宗教遺跡の研究』岩田書院
- ・ 長野 寛1987『英彦山修験道の歴史地理学的研究』名著出版
- ・ 奈良国立博物館2024『空海 密教のルーツとマンダラ世界』
- ・ 奈良国立博物館2026『吉野・大峰 蔵王権現に捧げた祈りと美』
- ・ 二丈町教育委員会編2008『夷類寺八坊と天台大師講』(二丈町民俗文化財調査報告書第6集)
- ・ 藤岡英礼2025『山寺遺跡の調査方法』『京の山寺—松尾山寺と京洛の山寺—』(松尾山寺遺跡調査報告書発刊・企画展「京の山寺」開催記念シンポジウム資料集)京都市考古資料館
- ・ 文化庁美術学芸課・読売新聞社編2026『新指定 国宝・重要文化財図録』読売新聞社
- ・ 宮家準編1986『修験道辞典』東京堂出版
- ・ 森弘子2000『宝満山歴史散歩』葦書房
- ・ 山の考古学研究会編2010『山岳信仰と考古学』II 同成社
- ・ 山村信榮2021『宝満山遺跡群の調査成果』『宝満山の古代山岳信仰』(第11回九州山岳霊場遺跡研究会資料集)
- ・ 若秋善満2020a『鳥居口遺跡』『彦山六峰・等覚寺の山岳信仰の研究—豊前等覚寺の山岳霊場・信仰遺跡現地調査報告書—』九州歴史資料館
- ・ 若秋善満2020b『山岳霊場遺跡出土の古墳時代遺物—求菩提山出土土器を中心として—』『求菩提山と豊前の山岳霊場遺跡』(第10回九州山岳霊場遺跡研究会資料集)